

2026年4月15日

～「2040年に向けた我が国金融資本市場のビジョンについての懇談会」設置について～

日本証券業協会
会長 日比野 隆司

このたび、「2040年に向けた我が国金融資本市場のビジョンについての懇談会」を設置いたしました。本懇談会の設置趣旨および座長としての思いをお伝えしたいと思います。

昨年7月、本協会の会長就任時に、私は「貯蓄から投資、その先へ」のスローガンを掲げました。

「貯蓄から投資へ」というのは、長きにわたり業界として掲げ、実現に向け取り組んできた大テーマです。ただ、四半世紀にわたるデフレ環境の中、その進捗は必ずしもはかばかしいものではありませんでした。

しかしながら、我が国がデフレ経済から脱却する絶妙のタイミングで導入された新 NISA を起爆剤として「貯蓄から投資」は本格的に動き出し、その流れはインフレ基調の定着とともに加速局面に移行しつつあると認識致しました。

そうした状況を踏まえ、今後は、「貯蓄から投資」に留まることなく「その先」を見据えた取り組みを強化すべきとの思いから「貯蓄から投資、その先へ」を就任時のスローガンとした訳です。

今般、「その先へ」を見据えた取り組みを推し進めるにあたっては、人口減少や高齢化、技術革新など、我が国が大きな経済社会環境の転換点にあることも念頭に置き、金融資本市場の長期的な展望について議論する必要があると考えました。

政府や経団連においては、労働力減少や社会保障費の増大を見据え、2040年をターゲットとしたマクロ経済フレームワークが既に示されています。しかし、そうした議論において、我が国の成長や投資を支える資金調達の内実、そして金融資本市場が果たすべき役割については必ずしも十分に明らかにされているとは言えないのが現状です。

資産運用と資金調達が一体となって成長を支え、活力を生む金融資本市場が、今後の我が国にとって不可欠です。そのため、「貯蓄から投資、その先へ」を提唱してきた立場として、本懇談会を設置することといたしました。

社会、経済環境が大きく変化する中で、本懇談会を通じ、証券界にとどまらず、各分野の有識者の皆さまの知見も賜りながら、「その先へ」の具体的なビジョンを描き、その実現に貢献する証券業界の将来像について幅広く、また骨太な議論を行っていきたいと考えています。

以 上